|  |
| --- |
| 第８章　大阪の国際化 |
| 近畿圏の貿易は、地域別では輸出入ともにアジアの割合が高く、北米の割合が低いこと、品目別では、輸出は輸送用機器の割合が低く、電気機器の割合が高いことが特徴です。第８章では、大阪の国際化の現状を把握するために、貿易や外国企業数、国際会議の開催件数等について取り上げます。 |

教えて！Q＆A

大阪税関「貿易統計」

|  |
| --- |
|  近畿圏の輸出入は、増えているの？減っているの？増減しているのは、何が原因なの？ |

 2020年の近畿圏の輸出額は15兆3,701億円、輸入額は13兆1,040億円で、それぞれ全国の22.5％、19.3％を占めています（8－3参照）。主な輸出品としては、半導体等電子部品や電気回路等の機器などの電気機器が挙げられます。

輸出額の推移をみると、中国への輸出増加などにより1990年代後半から増加が顕著になりました。リーマンショックが発生した2008年、翌2009年と減少に転じました。2010年以降は回復傾向にありますが、米中貿易摩擦や新型コロナにより、2019年、2020年と減少しました。ただし、全国よりは減少率が小さく、輸出額の全国シェアはやや上昇しました（8－1参照）。

近畿圏の輸出額は概ね輸入額を上回っており、貿易収支は黒字基調です。

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| ８－１特徴 | 全国・近畿圏の輸出入の通関額の推移 |

・ 近畿圏の2021年の輸出額は18兆6千億円で、前年に比べ21.0％増加しました。

* 近畿の輸出額の全国シェアは2021年では22.4％と、ほぼ横ばいでした。



大阪の国際化

|  |  |
| --- | --- |
| ８－２ | 全国・主要税関の輸出入の相手地域別通関額【2021年】 |

特徴

・ 近畿圏の輸出入の地域別構成比を国内他地域と比較すると、輸出入ともにアジアの割合が高く、北米の割合が低いことが特徴です。



大阪の国際化

|  |  |
| --- | --- |
| ８－３ | 全国・近畿圏の輸出入の品目別通関額【2021年】 |

特徴

・ 近畿圏の輸出は、全国と比べて「輸送用機器」の割合が低く、「電気機器」等の割合が高いのが特徴です。

* 近畿圏の輸入は、全国と比べて「化学製品」の割合が高く、「鉱物性燃料」等の割合が低いのが特徴です。



大阪の国際化

|  |  |
| --- | --- |
| ８－４ | 近畿圏の輸出入の主要相手地域別品目別通関額【2021年】 |

特徴

・ 近畿圏の輸出は、他の地域向けと比べて、アジア向けでは「電気機器」、アメリカ向けでは「一般機械」が多いのが特徴です。

・　近畿圏の輸入は、他の地域向けと比べて、欧米からは「化学製品」、アジアでは「電気機器」「その他」が多いのが特徴です。



大阪の国際化

|  |  |
| --- | --- |
| ８－５ | 全国・主要都府県の外国企業数の推移 |

特徴

・　大阪府に立地する外国企業数は2021年には125社で、全国シェアは3.9％です。

・　欧州系企業が51社と最も多く、アジア系企業が50社と続きます。



大阪の国際化

|  |  |
| --- | --- |
| ８－６ | 国内主要空港別国際線航空貨物取扱量の推移 |

特徴

・ 関西国際空港（関空）の国際航空貨物取扱量は、増加傾向にありましたが、201８年から３年連続で減少しました。

・ 関空の取扱量の減少は他空港に比べ緩やかなため、2020年の全国シェアは22.1％でした。

大阪の国際化



|  |  |
| --- | --- |
| ８－７ | 全国・主要都道府県の国際会議開催件数の推移 |

特徴

・　大阪府で開催した国際会議数は、感染症の影響で2020年は23件と大幅に減少しました。

・　全国の開催数も、2019年の３，６２１件から、2020年はわずか222件にとどまりました。



大阪の国際化

|  |  |
| --- | --- |
| ８－８ | 全国・主要都府県の在留資格別在留外国人数【2021年】 |

特徴

・ 大阪府における在留外国人は、2021年6月末に250,071人で全国の8.9％です。

・　在留資格別では、「特別永住者」「永住者」「技術・人文知識・国際業務」の順に多くなっています。



大阪の国際化